

インフルエンザの咽頭濾胞の特徴とAI解析について

日時 11月17日（木）19時00分～20時00分

場所：順天堂大学医学部総合診療科（Zoomで中継）

司会：森 博威先生 順天堂大学医学部総合診療科学講座准教授

参加費：無料 医局員はZoomのURLコードを送付します



福田 芽森先生

アイリス株式会社 臨床開発部

プロフィール

循環器内科専門医、認定産業医。平成23年東京女子医科大学卒。東京医療センター、慶應義塾大学病院循環器内科にて勤務。予防医療の観点から、産業医やYahoo! ニュース個人などでサイエンスライターとしても活動している。さらに、医療に広い視点で関わりたいという気持ちから、2019年よりアイリス株式会社に入社。AI医療機器開発に従事。

要約

2018年の国内インフルエンザ患者数は2000万人を越え、史上最大の流行となった。現状の検査法は、発症してから24時間以上が経過しないと診断精度が十分に上がらず、その精度自体もシステマティックレビューにおいて6割程度と報告されている。また、「インフルエンザではない」という判定が出た場合、その方々が通勤や通学することで感染拡大のリスクも生まれる。従来の検査法も少しずつ改善に取り組まれているが、抜本的な解決には至っていないのが現状である。

アイリス株式会社ではインフルエンザを診断する全く新しい手法として、日本の医師が発見した「インフルエンザ濾胞」に注目した。インフルエンザ濾胞による診断は精度が高い一方、診断に熟練した技術が必要とされている。アイリス株式会社ではその熟練した「匠の目」を、AIの力で再現しようとしている。本講演ではアイリス株式会社が70施設・1万人の大規模スタディとして実施したインフルエンザの濾胞の特徴とAI解析について話をしていく。

順天堂大学医学部総合診療科学講座

Department of General Medicine, Faculty of Medicine, Juntendo University

<http://www.juntendo-general.com/index.html>

Tel 03-5802-1190 Email jungmsym@googlegroups.com